

大森長朗 (1977) エゾヤハズの四分胞子発生機構の解析 I. 仮根形成について, 藻類, 25 増補: 251-255.

HURD, A. M. (1920) Effect of unilateral monochromatic light and group orientation on the polarity of germinating *Fucus* spores. Bot. Gaz., 70: 25-50.

WHITAKER, D. M. (1941) The effect of unilateral ultraviolet light on the development of the *Fucus* egg. J. General Physiol., 24: 263-278.

大森・末村: 703 岡山市平井1丁目, 山陽学園短期大学

□Bold, H. C. & M. J. Wynne: **Introduction to the Algae.** Structure and reproduction. i~xi, 1~706. Prentice-Hall, Englewood Cliffs.

序章では藻類の分布・出現, 植物界における藻類の位置, 藻類の体制, 生殖, 培養法, 分類系, 化石藻類, 藻類と人生などについて述べてある。この部分は内容の割に頁数が少ないが, 簡潔ながら要領よく, うまくまとめている。

本文は Cyanochloronta, Chlorophycophyta, Charophyta, Euglenophycophyta, Phaeophycophyta, Chrysophycophyta, Pyrrophyphyta, Rhodophycophyta, Cryptophycophyta の 9 division に分けて, division によって多少の差異はあるが, それぞれの生育環境, 一般的な特徴, 細胞や藻体の構造, 運動, 生殖法や生活史, 栄養法などについて述べたあと, その division 毎の分類系が示してある。

この中でも細胞や藻体の構造について, 主要なものは透過型・走査型電顕写真なども示されていて, 本文の説明の簡潔さを補って, わかりやすいと思われる。

Cyanochloronta (いわゆる Cyanophycophyta) は 3 目にわけ, その中の 27 属がとり挙げられている。属については形態的特徴の他に生殖法などが記されているが, 属の説明に当ててあるスペースは一般に少なく, したがって, 属の詳しい形質を調べるには少し不十分である。

次の Chlorophycophyta は Volvocales, Tetrasporales, Chlorococcales, Chlorosarcinales, Chlorellales, Ulotrichales, Chaetophorales, Oedogoniales, Ulvales, Cladophorales, Acrosiphonales, Caulerpales, Siphonales, Dasycladales, Zygnematales の 15 目で, この中には最近の研究にもとづいた目の新しい分け方も出てくる。属は合計 121 のものがとりあげてある。

Charophyta では全般的な形態, 生殖などについて述べてある。Euglenophycophyta は 3 目に分けて, 9 属。Phaeophycophyta は 13 目 43 属について述べてあるが, ここのところは他に比べて詳細である。

Chrysophycophyta は珪藻の 2 目を含めて 5 綱 16 目に分けて 20 属が扱われている。Pyrrophyphyta は 6 目 9 属が扱われているが, 赤潮や毒性にもふれて関連の新しい文献も多く引用してある。

Rhodophycophyta は色素体や pit connection の問題や生活史にふれたあと, 2 亜綱 9 目の 57 属を扱っているが, その中の主なものについては説明が詳細である。最後に Cryptophycophyta が 4 頁にわたって記されている。

付録として培養法, 代表的培養液の処方 8 頁, Glossary が 10 頁で本文中に出てくる主要な術語が拾ってある。引用文献は実に充実し, 約 90 頁, 文献数はおよそ 2400 点にのぼっているが, 改行にしてあるために非常に見やすく便利である。

先に, 記載されている属の説明が少ないと述べたが, 実は巻末にある膨大な引用文献をみると, この本の本領がはつきりすると思われる。引用文献は Oltmann, Fritsch などの名著の他に Monograph として主要なものは別として, 大部分が 1960 年代以降の新しいものである。この本では綜説的な部分も属の記述も, すべて Oltmanns, Fritsch. さらには Smith ものをふまえて, それ以後に新しく加わった知見を, それらの文献を引用しながら巧に説明を進めている訳である。

最近では学術誌の数もふえ, その総てを見るのは容易なことではないが, この本のように新しい文献を網羅して, それを引用して説明を進めているのは, 私にとっては誠に有難い本であるし, 少なくともこの本に引用されている文献は目を通してから仕事を進めたいものだと思っている。(日大, 農獣医・教養・山岸高旺)